

学校だより



平沼

横浜市立平沼小学校

平成 30 年 10 月 31 日

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>

「能力」ではなく「努力」をほめる

教務主任 服部 賢一

土曜参観には、多くの保護者の方にご来校いただきました。本当にありがとうございました。体育館では、演奏を聴いていただくスペースが十分に取れず、申し訳ありませんでした。それでも、演奏発表では子どもたちの本気の姿を見ることができたと思います。あの場で、練習通り演奏できた子もいたでしょうし、そうではなかった子もいたかもしれません。

しかし、発表をしている子どもたちの姿の裏にある、「今までどのような練習をしてきたのか」「今までどのような過程を踏んであの場で演奏をしているのか」を見ていただくこともできたのではないかと考えています。特に発表という場面では、その場で見えていることだけではなく、その裏にあるものを考えながら見ることも、学年に応じて、子どもたちにも伝えていきたいと考えています。

さて、話は変わりますが私たち教師は子どもを育てる仕事をしています。子どもを育てる上で、「ほめて伸ばす」ことはとても大切なことです。ここで少し、「ほめる」ということについて日頃考えていることをみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

まず、「ほめ言葉の数」についてです。私は現在、2年生の担任と一緒に算数T・T（ティームティーチング）として算数の授業を行っています。そこで、その時に子どもに向けたほめ言葉を思い出し、5分ほどノートに書き出してみました。すると、30種類くらいの言葉が出てきました。時間があればもっと書き出せるとは思うのですが、まだまだだと反省しています。

ここで、他の職業をみてみましょう。例えば、レストランや飲食店でお客様に合うワインを提供する「ソムリエ」です。ソムリエは、ワインの味を表現するのに何種類くらいの言葉を使っているのでしょうか。

その数、なんと700種類とも言われます。中には「光沢のある」「透明な」というものから、「年をとった金色」「乾いた乾草のような」などの言葉までいろいろあるようです。ソムリエはこのような言葉を勉強していて、すべて使い分けています。私たちも700種類とはいかないまでも、多様な言葉で、その子に合ったほめ言葉を使いたいと思います。

次に、「ほめるタイミング」についてです。これは世界中で研究されており、「即時フィードバック」が大切だと言われています。「即時フィードバック」とは、「『その場』で『具体的』に『描写的』にほめる」ということです。「よくできたね。」ではなく、「〇〇さんの、この歌詞を歌っているときの表情がとてもよかったよ。」「ミからファへのリコーダーの指使いができるようになったね！」などのほめ方がよいということです。

最後に、「効果的なほめ方」についてです。コロンビア大学の教授らが、ある公立小学校の児童を対象にして「ほめ方」に関する実験を行いました。その結果、「子どものもともとの能力（＝頭のよさ）をほめると、子どもたちは意欲を失い、成績が低下」した一方で、「努力をほめられた子たちは成績を伸ばした」ということです（『学力』の経済学 中室牧子）。

今回のソングパーティーで言えば、子どもをほめるときには、「さすが6年生。」「歌がうまいね。」などよりも、「この前よりも高い音がきれいに出るようになったね。」「みんなが拍を意識したから、全体のリズムがよくなったね。」など、具体的に子どもができるようになった内容をほめることが大切なのだそうです。

学校や家庭でも、ほめる場はたくさんあります。これらを意識して、今後も子どもたちのよいところをほめ、子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。